

特別展関連プログラム

講座

①10月17日(日)

日本の人形文化

—大石内蔵助父子像と人形との境界をめぐって

是澤 博昭 氏 (大妻女子大学教授)

②11月20日(土)

御心のかたち

—宮中ゆかりの御人形—

林 直輝 氏 (日本人形文化研究所所長)

午後1時30分～3時 定員：各回25名(抽選) 参加費：無料

講座申込方法 往復はがき(1枚につき1講座1名)に、参加希望日・住所・氏名・電話番号を明記のうえ、郵送ください。

※一時保育(4か月～就学前、各3名)希望の場合はその旨も明記してください。

宛先 〒108-0071 港区白金台4-6-2 港区立郷土歴史館 講座係

締切(必着) ①9月29日(水) ②10月29日(金)

親子で楽しむ車人形 さわってみよう! みてみよう!

親子
学習会

10月23日(土) 午前10時～11時30分

対象：小学生と保護者 定員：8組16名 参加費：無料

はじめての車人形 実演と体験ワークショップ

10月23日(土) 午後1時～2時30分

対象：中学生以上 定員：16名 参加費：無料

江戸時代末から伝承される八王子車人形は、文楽に見られる三人遣いの人形を一人遣いに改良した人形劇です。「二人三番叟」や「東海道中膝栗毛」などのお芝居を鑑賞し、レクチャーを受け、実際にさわってみましょう。



「二人三番叟」実演のようす

実演・解説：八王子車人形西川古柳座 五代目家元 西川古柳

▶事前申込期間：10月1日(金)～10月7日(木)

ギャラリー展

わたしの人形

幼き日に毎日遊んだ着せ替え人形、テレビで夢中になったあのヒーローの人形…。けっして貴重なものではないかもしれないけれど、それぞれの時代の思い出とともに大切な「わたしの人形」がありませんか? 当館スタッフを中心に集めた「わたしの人形」たちを、その人形にまつわる思い出のエピソードを添えて、4階ギャラリーにて展示します。(観覧無料)

秋のものづくりテーブル

折り紙でつくる人形

折り紙を使って、いろいろな人形をつくってみる体験コーナーを無料開設。人形の仲間たちを増やして、折り紙人形の輪を広げましょう。

観覧料 特別展のみ 大人 400円(320円) 小・中・高校生 200円(160円)
常設展セット 大人 600円(480円) 小・中・高校生 200円(160円)

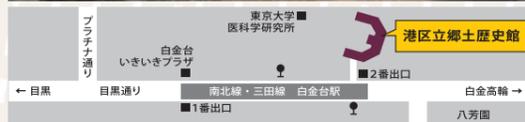
※()内は10名以上の団体料金
※区内在住・在学の小・中・高校生、区内在住の65歳以上の方、区内在住の障害者とその介助者(1名)の観覧料は無料(証明ができるものをご持参ください)
※11月3日(水・祝)は港区民無料公開日(港区区内在住の証明ができるものをご持参ください)

開館時間 午前9時～午後5時(土曜日のみ午後8時まで) ※入館受付は閉館の30分前まで

会期中休館日 10月21日(木)・11月18日(木)

港区立郷土歴史館

〒108-0071 港区白金台4-6-2 ゆかしの杜内 電話 03-6450-2107 minato-rekishi.com



●東京メトロ南北線・都営三田線 白金台駅 2番出口 徒歩1分
●都営バス・東急バス 白金台駅前停留所 徒歩1分
※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、混雑時は入場制限を行う場合があります。また、今後の状況により会期等が変更となる場合があります。ホームページ等にて最新情報をご確認ください。



人とともにあるもの

港区立郷土歴史館特別展

令和3(2021)年 10月2日(土) → 12月5日(日)

港区立郷土歴史館 〒108-0071 港区白金台4-6-2 ゆかしの杜内 電話 03-6450-2107 minato-rekishi.com

人形

人とともにあるもの

未来への不安を取り除くため、切実な願いを叶えるために祈りを捧げる。それはコロナ禍の今も、そして昔も変わらない人の姿です。人が「人の形をしたもの」に願いを託したときに、人と人形(にんぎょう・ひとがた)の歴史は始まったといえます。人の手によって作られた人形は、人とのかかわりにおいて多様に展開し、日本独自の文化を形成しました。

本展では、港区にゆかりのある人形を中心に、人形に託された役割 一人を守り、願いを受けとめ、楽しませ、寄り添う— に焦点をあて、人とともにある人形の特徴を探ります。

プロローグ

まもり、はらう

人形が「にんぎょう」として一般化されたのは室町時代以降で、それまではひとがた、かたしろ、あまがつ、ひいな、土偶人、木偶人、傀儡などと記されました。土・石・木・金属などを素材とした「ひとがた」は霊的対象物としての要素が大きく、平安時代初期には国家的祭祀に用いられました。

人形は本来、人間の形代として、神霊の依代として、罪を祓い病の快癒を願い、あるいは他人の不幸を祈り呪うなど、人間の運命の身替わりの役目を果たしたのです。



本来的な役割を持つ人形
天児(右)・遣子(左) / 吉徳資料室蔵

第1章

願う、愛でる — 祈念の人形

乳幼児の生存率が低かった時代、節句儀礼に子の健やかな成長を託した親心は切実なものであったでしょう。誕生、初節句、初お目見え、婚姻等を契機として贈られた雛人形や御所人形は、日本で生まれ、江戸時代以降豊かに花開きました。

江戸城に近い港区域には大名家が屋敷を連ね、近代には皇族や財閥が多く屋敷を構えました。これら上層階級の人々が人生の折節に求めた人形に、都市部で展開した日本独自の人形文化の成熟を知ることができます。



皇女和宮を守る人形
御所人形 はいはい
公益財団法人徳川記念財団蔵

大正天皇、初参内の拝領人形
初参人形 袴姿(右)・長絹袴姿(左)
東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives(右)
横浜人形の家蔵(左)



第2章

宿し、魅せる — 壇上の人形

古来の「祀り、祓う」人形は、やがて「演じる」役割をもちます。神霊の依代という本来的な役割をもつ山車人形、当時の先端技術を駆使したからくり人形、人の手で操られ物語を演じる浄瑠璃人形。これらはいずれも祭礼や興行という賑わいの場において、壇上で曳き回され、操られ舞うことにより衆目を浴びました。一過性の空間で繰り広げられる人形の存在が、人々を高揚させ非日常へといざなう装置となったのです。



江戸のロボット、からくり人形
弓曳き童子 / 久米市教育委員会蔵

熊襲退治をする日本武尊
山車人形 日本武尊
NPO法人赤坂氷川山車保存会
(赤坂新町五丁目町会)蔵



第3章

在り、伝える — 物語る人形

本章では、かの有名な赤穂事件の舞台の一つ、高輪泉岳寺の義士像を紹介します。彼らは名前を持つものとして、恒久的に安置され、あるいは祀られることにより、物語の象徴としての機能を果たしました。

また本章では、港区ゆかりの文学者、江戸川乱歩と巖谷小波にまつわる人形を紹介します。人から人へ、文学者独自の視点で人形が語られ、人形をめぐる物語が紡がれました。



夢野久作から江戸川乱歩への贈呈品
博多人形 舞妓 / 立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター蔵



泉岳寺に安置された赤穂義士の木像
大石内蔵助像 / 泉岳寺蔵

エピローグ

人とともに

本章では港区域の江戸時代の遺跡から出土した人形や港区にゆかりのある方々から寄贈いただいた人形を紹介します。人形は時に神をうつし、晴れの場を飾り、日常を楽しませ、寄り添ってきました。ここでは、今も昔も変わらない「人とともに」ある人形のカたちをご覧ください。

あなたにとって人形は、どのような存在ですか？



大名屋敷の操り人形
木製人形かしら / 東京都教育委員会蔵



夭折したわが子の副葬品
土製人形(衾人形・三味線弾き) / 当館蔵



買茂人形 七福神
有馬家蔵・有馬記念館寄託
土製人形(童子・姉様・太夫) / 当館蔵
浄瑠璃人形 男 / 当館寄託
御台人形 乗馬 / 吉徳資料室蔵
木製人形かしら / 東京都教育委員会蔵
木目込人形 六歌仙
有馬家蔵・有馬記念館寄託
木製ひとがた / 東京都教育委員会蔵